

## 4. 奥尻町の概況

### (1) 奥尻町の自然、概要

・奥尻町は北海道南西部の渡島半島の西約 18 km に位置し、日本海上に浮かぶ周囲 84 km の離島となっている。



図 4-1 奥尻町の位置

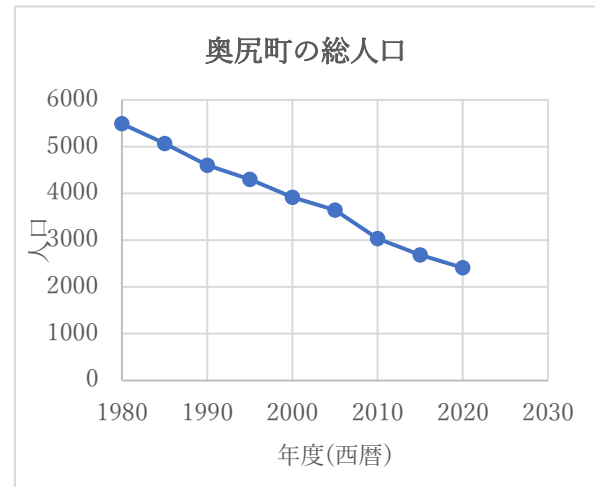
・同町の面積の 8 割を森林が占めており、豊かな自然を有している。そのため森林に保水され水が海へと流れ、栄養分を含んだ水が安定的に海洋に供給されている。水が豊富なこともあり、離島では珍しく稲作も行われている。

・町の人口については、1960 年(昭和 35 年)をピークに過疎が進み急激に減少している。近年、町の人口は 2 千人台で推移しており、老年人口の割合が高まっている(表 4-1)。

このような人口低下の中で、少しでも人口減少に歯止めをかけるため、当町としては産業の振興・維持に更に力を入れ、漁業者はイカ・ホッケといった主漁業、補完する養殖業、更には今回のブルーカーボンクレジットなどに取り組み漁家の安定を図る。また、新しい雇用の場や後継者の育成、とりわけ子供たちには島のことを十分学習できるよう応援できる体制の構築を図っている。

表4-1 奥尻町人口の推移

年度(西暦)	総人口	内35歳未満	内65歳以上
1980	5490	1369	551
1985	5069	1115	629
1990	4604	971	718
1995	4301	708	782
2000	3921	532	946
2005	3643	469	999
2010	3033	317	993
2015	2690	253	995
2020	2410	163	997



・2024年5月に奥尻町役場新庁舎が完成し開庁されました。新しい庁舎は防災の拠点として町民の安心安全を支える庁舎として位置づけされている。



写真 4-1 奥尻町役場新庁舎開庁



写真 4-2 奥尻町役場新庁舎外観

## (2)奥尻町の産業、観光

・水産業の町として栄えているが、近年の漁業ではホッケ・スルメイカといった回遊魚の不漁からナマコ・キタムラサキウニ・養殖業といった沿岸漁業が主な漁業となっている。養殖業では、以前はアワビ養殖が盛んに行われていたが、価格の安い海外からの輸入物が多く出回り規模が減少している。近年ではキタムラサキウニ・ナマコその他、トラウトサーモンや藻類養殖にも取り組んでいる。

・ワインの原料となる葡萄も島の畑で栽培されており、ワインを作る環境としては、海の囲まれていることで塩害もあり特殊な土地であるがゆえの苦労もあるが、時間をかけて潮風にあたり奥尻ワインならではのミネラル分が多く含まれたものとなっている。



写真 4-3 奥尻の葡萄



写真 4-4 奥尻ワイン

・観光業は奇岩「なべつる岩」(写真 4-5)を始め、多くの観光資源を求め令和 6 年度では観光客入込数が約 2 万 5 千人となっている。透明度の高い、きれいな海を活かした SUP やカヌーなどの体験アクティビティが盛んに行われている。



写真 4-5 なべつる岩

・奥尻町は 1993 年に未曾有だにしない災害「北海道南西沖地震」マグニチュード 7.8、最大深度 5（当時の震度階級）及びこの地震に伴い大津波（最大 29m）が発生し甚大な被害を受け、人的被害では死者・行方不明者合わせて約 200 名っており、被害総額では 664 億円となった。その後、高台への防災集団移転や島を取り囲むように防潮堤が整備された他に犠牲者の慰霊碑「時空翔」や北海道南西沖地震を後世に伝える資料館として奥尻島津波館(写真 4-6)が 2001 年に建設された。全国から多くの温かいご支援をいただき早期復興を果たし、現在に至っている。



写真 4-6 奥尻島津波館

・奥尻島は 1977 年に阪急ヘドラフト 1 位で指名された、「佐藤義則氏」や 2022 年にはドラフト 4 位でヤクルトスワローズから指名を受けた「坂本拓己氏」などプロ野球選手が排出されている。

### (3)奥尻町でのブルーカーボン(海藻)活動、地域貢献活動、ゼロカーボン活動

・2017 年から高校存続のため、道立奥尻高校から町立奥尻高校へ移管され子供が少ないというところを補うため、島外の生徒を迎える島留学生制度を開始した。

普通科でありながら島特有の授業としてスクーバ授業があり、安全対策の面で漁協が協力し、2023 年には島留学生の一人が奥尻高校卒業後、島の漁師になりたいとの熱意から新米漁師として活躍し、構成員の漁師は親方として手助けをしている。



写真 4-7 スクーバ授業



写真 4-8 新米漁師と親方漁師



・2025 年 1 月ひやま漁業協同組合青年部奥尻支部と北海道エアシステムの交流の中で、奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会の活動を報告するとともに、協議会が独自に養殖しているホソメコンブを海底に沈めることでブルーカーボン効果が得られる点において、両者の ECO に関する考え方が同じであることから、ホソメコンブ脱炭素推進の支援及びサステナブル。アイランド実現へ北海道エアシステムから協力を得ることができました。



写真 4-9 漁業者と北海道エアシステムとの意見交換会



・2025 年 1 月に認証を受けたクレジット「サステイナブル・アイランド奥尻」アクション藻類による BC プロジェクト（令和 6 年度第 2 回認証発行分）は申込者の株式会社北海道エアシステム、株式会社渋谷潜水工業、オクシリアイランドフェリー株式会社に譲渡されたことが公表されました。

・2025 年 3 月ジャパブルーエコノミー技術研究組合 JBE 令和 6 年度(2024 年度) J ブル

## 添付ファイル 4

ークレジット発行証書交付式等が開催され、奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会から田中会長、共同申請者の（株）渋谷潜水工業から渋谷所長が出席しました。証書授与の他に、Jブルークレジット活動報告、プロジェクトの概要説明、奥尻町のPRを行いました。



写真 4-10 Jブルークレジット発行証書交付式



写真 4-11 発行証書

・2025 年 3 月に奥尻地域マリンビジョンを開発局へ提出しました。計画策定にあたっては、構成員を新たに任命し、三度にわたり意見交換。協議を行いました。地域特性や問題点、課題等を踏まえ、地域のあり方＝将来像を描き、その実現性に向けて様々な分野と連携しながら実現にむけた取組を行っていかうとするもので、計画の大きな4本の柱のうち、「環境・生態系保全とグリーン社会の構築」をその一つとして、産・学・官・民の協働で行う漁村地域の活性化のため、ブルーカーボンの取組を大いに推進するものです。



写真 4-12 奥尻地域マリンビジョン協議会



写真 4-13 計画書の抜粋

## 添付ファイル 4

・2025 年 3 月に開催された第 30 回全国青年・女性漁業者交流大会で若手漁師の団体であるひやま漁業協同組合青年部 奥尻支部が「離島の水産業の 3 つの課題～島の漁業者はなんでもやる～」として発表したところ、ブルーカーボンなどの取組みが高く評価され、最高賞の農林水産大臣賞を受賞しました。



写真 4-14 農林水産大臣賞

・2025 年 6 月に漁業者と小学生が昨年度からの種苗糸作業から収穫、食べるの一貫しあ都度歌から、地産地消の重要性や子供たちに海藻への興味を持ってもらう学びの場の提供を行った。



写真 4-15 漁業者と小学生との海藻学習

・2025 年 7 月に奥尻高校生が「発信」することを通じて、地方創成に関わり、町の活性化を目指す奥尻パブリシティ本部として活動しています。今回は奥尻町のゼロカーボンの学習会を行い、その一つとして「ブルーカーボンとは」、「奥尻町のブルーカーボンの取組」を照会し、将来を担う子供たちへ学習を通じてブルーカーボンを知ってもらう機会となりました。





写真 4-16 奥尻パブリティー本部学習会

・2025 年 6 月に奥尻町と ENEOS 株式会社で「ブルーカーボンを活用した脱炭素社会の実現」に向け連携協定を環境省および北海道庁のご臨席のもと締結しました。奥尻町周辺海域の豊富な海洋資源を背景に CO<sub>2</sub> 吸収源として期待が大きいブルーカーボンの取組実現を目指し、脱炭素社会の実現に貢献する未来のブルーカーボンの創出・推進に向けて、ENEOS はブルーカーボンに関する検討と実証試験を行い、奥尻町は漁業者をはじめとした関係者と連携し、この検討と実証試験に協力するものとし、調印式には関係漁業者及び将来を担う高校生も参加し、意見交換も行いました。



写真 4-17 奥尻町と ENEOS（株）連携協定式



写真 4-18 意見交換

・2025 年 7 月 26 日に大阪・関西万博会場で開催された「高校生による未来につながる海洋テック発表会」で奥尻高校生 2 名が奥尻島の抱える課題として地球温暖化の影響で気温。海水温の上昇への解決手段として、奥尻で取組まれているブルーカーボン・藻場保全の他に私たちでできることとして、海藻を使った商品の開発により海藻の知名度 up や海藻の外敵のウニ殻を使った商品や肥料への再利用といったサステナブルで循環型の解決方法を発表しました。審査員からの評価は高く、環境省賞及びセブン&アイ賞の上位 2 賞を受賞しました。受賞できたこともあり、海藻の商品開発を軸に自ら学び、考え、課題を見つける力、課題を解決するために論理的な思考力、他者と協働しながら課題を解決する力を養うため高



## 添付ファイル 4

校生は更なるレベルアップを目指し、第13回高校生ビジネスプラン・グランプリにも応募を行いました。



写真 4-19 大阪・関西万博会場 高校生による未来につながる海洋テック発表会



写真 4-20 環境省賞及びセブン&アイ賞 写真 4-21 環境省主催シンポジウム招待権など